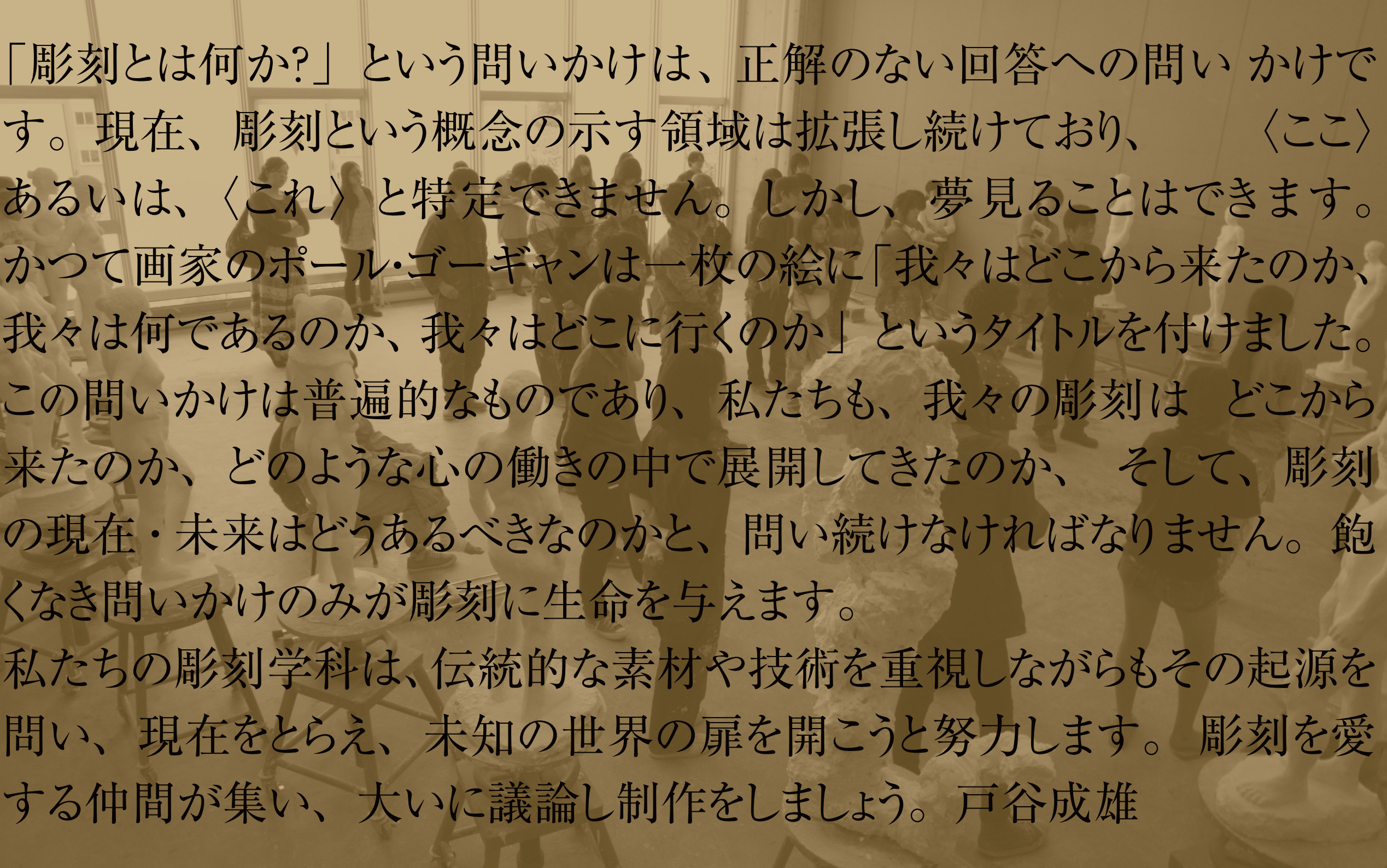




「彫刻とは何か?」という問いかけは、正解のない回答への問いかけです。現在、彫刻という概念の示す領域は拡張し続けており、〈ここ〉あるいは、〈これ〉と特定できません。しかし、夢見ることはできます。かつて画家のポール・ゴーギャンは一枚の絵に「我々はどこから来たのか、我々は何であるのか、我々はどこに行くのか」というタイトルを付けました。この問いかけは普遍的なものであり、私たちも、我々の彫刻は どこから来たのか、どのような心の働きの中で展開してきたのか、そして、彫刻の現在・未来はどうあるべきなのかと、問い続けなければなりません。飽くなき問いかけのみが彫刻に生命を与えます。

私たちの彫刻学科は、伝統的な素材や技術を重視しながらもその起源を問い、現在をとらえ、未知の世界の扉を開こうと努力します。彫刻を愛する仲間が集い、大いに議論し制作をしましょう。戸谷成雄

Musashino Art University

Department of Sculpture

Curriculum

1 年次

まずはじめに見ることのプロになる。

1年次は多様な課題が準備されています。ものを「みること」「つくること」「かんがえること」をひとつの表現の中でとらえ、それぞれの方法で自分の視点で探ってゆきます。

基礎課程 1 年次

- 【前期】
 - 基礎造形
 - ↓
 - 彫刻 A
 - ↓
 - 彫刻 B
- 【後期】
 - 造形基礎・選択 [油絵・版画・日本画・彫刻]
 - ↓
 - 造形総合科目
 - ↓
 - 造形総合科目
 - ↓
 - 造形総合科目

表現基礎

他領域の授業を受講

2 年次

自分でカリキュラムを組んでみる。

2年次は全て選択制のカリキュラムです。自分でカリキュラムを組んでみましょう。様々な素材と向き合いテーマや技術を絞り込んだ密度の高い実習がはじまります。

基礎課程 2 年次

- 【前期】
 - 彫刻 C
 - ↓
 - 彫刻 D
 - ↓
 - 彫刻 E
- 【後期】
 - 彫刻 F
 - ↓
 - 彫刻 G

表現実習

- ミクストメディア
- 石
- 木
- FRP
- テラコッタ
- 等身塑造

実材実習

- 鉄
- ブロンズ
- 石
- 木

3 年次

専門工房を駆使した制作。

3年次は素材やメディアに対する固有の探求のはじまりです。前半はイメージの実現化を目指し、後半は自己の制作を分析し展開する可能性を探り、表現力を深めてゆきます。

専門課程 3 年次

- 【前期】
 - 彫刻 H
 - ↓
 - 彫刻 I
- 【後期】
 - 彫刻 J
 - ↓
 - 彫刻 K

素材と形体

形象と媒体

4 年次

自在な制作活動へ。

4年次はこれから社会に対して表現を生み出してゆくはじまりです。これまで培ってきた表現力の展開を社会的に公開する方法を通して追求し、自立して制作してゆく基礎を構築します。

専門課程 4 年次

- 【前期】
 - 彫刻 L
 - ↓
 - 彫刻 M
- 【後期】
 - 卒業制作

逸脱

表現演習 a (木曜 4 限)

これが作家の本音だ。この授業にタブーはありません。

教員と学生と一緒に勉強する時間です。第一線で活躍している様々な領域の専門家を招き、表現の現場で今一番問題にしていることを問う講義・演習科目です。

表現演習 b (木曜 3 限)

最先端技術が進む現在で、「手でものを作る事」とは何だろうか。

芸術の制作で論理的な思考はどのように必要だろうか。グローバルな社会の中における最先端の技術や論理的展開を、英語を母国語とする講師といっしょに考えてゆきます。(3Dプリンターで出力。授業は英語で行います。)

大学院

更なる広がりに向かう。

様々な専門家を有する研究機関として、社会に対して実際に何かを生み出してゆく場として。

大学院博士前期課程

- 【1 年次】
 - 彫刻研究 I
 - ↓
 - 彫刻研究 II
- 【2 年次】
 - 彫刻研究 III
 - ↓
 - 修了制作

博士

自立した表現者として。

制作と理論の両面を追求する、より横断性のある専門領域構成を持つシステム。

大学院博士後期課程

- 【1 年次】
 - 作品制作研究 I
- 【2 年次】
 - 作品制作研究 II
 - 総合研究 I
- 【3 年次】
 - 総合研究 II



a 金属・セラミック工房

(2号館 102)

鉄やその他非鉄金属の加工や鋳造、セラミックの焼成など、重機や火気を使う制作のための複合工房。天井高 10 メートル以上の巨大空間が自慢です。

b 木彫工房

(2号館 101)

3 センチの厚さの床材でフローリングされている美しい工房。床面は単にきれいなだけでなく、木材というデリケートな素材を保護するクッションにもなっています。2 基のクレーンと集塵装置の他、様々な木材の加工機器も完備された工房です。

c 石彫工房

(2号館 B101)

吹き抜けに備え付けられた大きなクレーンで、石材をトラックから直接工房に搬入できます。また工房内には搬入用とは別に、動きのスムーズなインバータ式クレーンも設置されています。重量物を移動させやすく女性にもやさしい工房です。強力な集塵設備はもちろん、シャワー室も隣接しています。

d ミクストメディア工房

(2号館 301)

ミクストメディアには「複合的な素材」と「複数の表現媒体」という二つの意味があります。ここではワックスやテラコッタを含むさまざまな材料に対応できる広いスペースと集塵・排煙設備を備え、多様な制作を可能にしています。

e 塑像工房+基礎過程工房

(2号館 304、306、309、310、312、313)

採光の美しい工房です。粘土槽を移動できるなど、目的に応じたフレキシブルな制作の展開が可能です。

f セラミック焼成窯

1250℃の本焼きが出来るガス窯は、高さと横幅それぞれに対応した2種類があり、等身大の作品もそのまま焼くことができる大きな窯です。電気窯もそれぞれ2種類あり、合計4基が設置してあります。

g PC ルーム

(2号館 212)

数台の PC、3D プリンタ、レーザーカッター、コンピュータ制御による 3D 切削機などの設備を備え、PC からの 3D 出力や、映像的なアプローチが可能であり、彫刻の新しい可能性が模索されています。

h プラスチック工房

(2号館 303)

ポリエステル樹脂を中心とした化学素材を扱う工房です。有機溶剤対策として、吹き出した空気を強制的に吸い込み換気する「Push-pull 式」の強力な換気システムを備えています。いわば工房全体が巨大な換気管となっています。

i 可傾炉

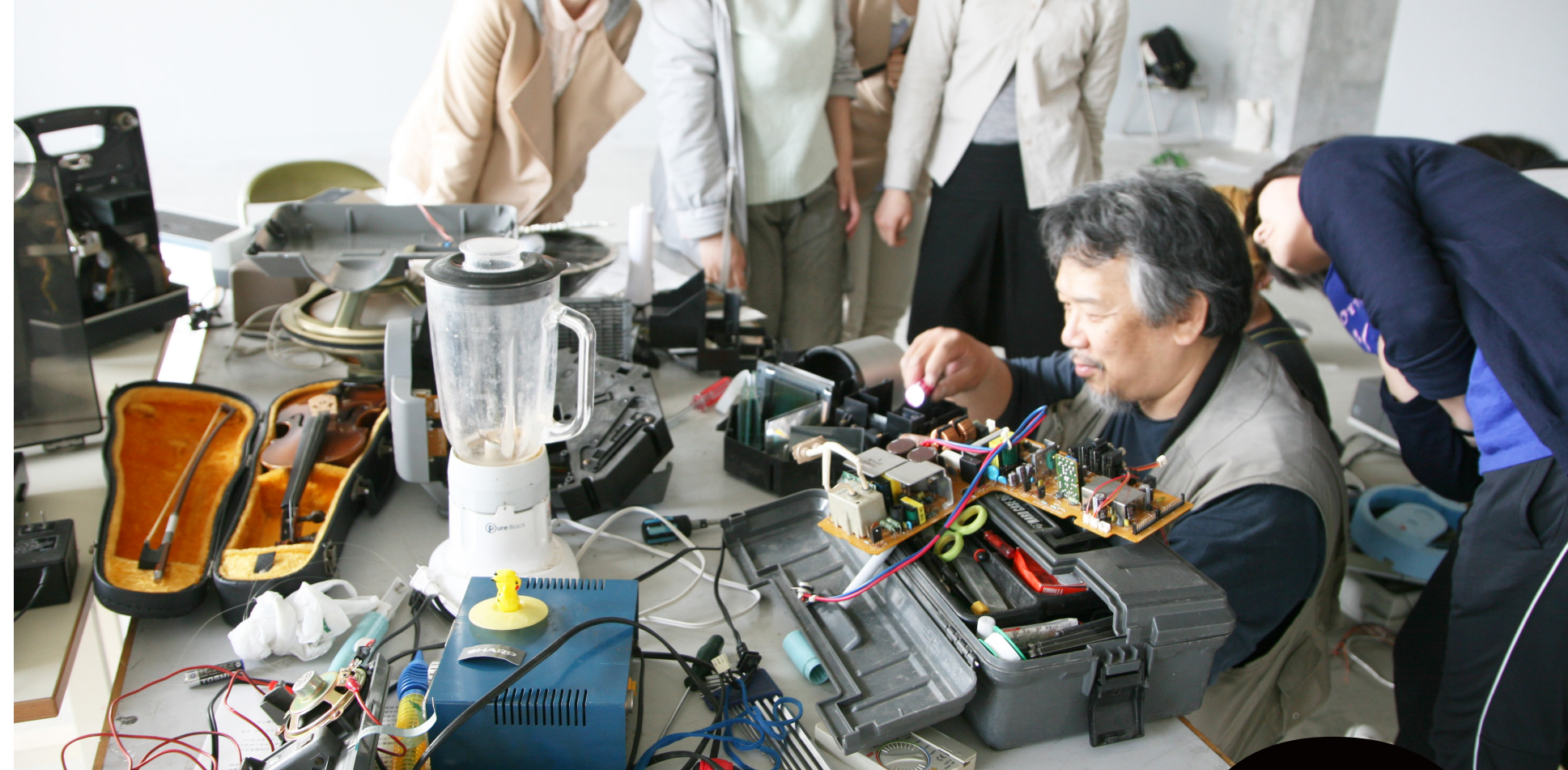
鋳造のための炉は大きいものから小さいものまで 4 基を設置しています。ブロンズはもちろん、アルミニウムの鋳造も可能です。

studio



基礎課程 1～2年次

彫刻は「どこにでもある材料」から「どこにもないもの」をつくるということが基本です。その表現の世界は非常に広い領域でそこには素材に対する感じ方や「もの」に対する考え方の違いがあるでしょう。しかし私たちはそれを超えて感動したりそれを通して世界を広げることができることが重要だと考えます。それを可能にするための実習がこの基礎課程です。造形的な基礎と自分自身の視点を探ること。この2つを私たちは表現の「基礎」と考えています。この基礎を巡る問題を様々なかたちで関わらせようというのがこの課程の特徴です。



2



3

専門課程3～4年次

3年次からは、より自由な制作を進めるために専門工房を駆使した制作が始まります。扱う素材ごとに7種類の工房が設けられ、そこをベースに制作します。それぞれの教員が深く関わりと同時に、「専門」という枠組みを超えて、工房を「横断」出来ることも大きな特徴です。専門性に対して新しい解釈を生み、深く一つの領域・素材を追求することも、独自のジャンルを構築してゆくことも可能なシステムとなっています。自分の視点を探求してゆくカリキュラムを縦糸とするならば、横糸に相当するのが素材別工房による指導です。



4

Master Doctor

大学院博士前期課程

大学院造形研究科彫刻コースは、対外的な発表を含み実際に社会に対して表現を発信して行く場です。専門的な個人指導に加えて、国内外で活躍する作家、研究者による理論と制作両面のゼミが計画的に行われます。また専門性を高めるために他の領域とのプロジェクトも計画的に行われ、自立して制作研究を行うことを目指します。

大学院博士後期課程

博士後期課程は、突出した表現や研究を発信することを目的とした、より横断性のある専門領域構成を持つシステムです。制作 理論の両面でムサビの全てが活用され、きびしい批評のもとに学位が認定されます。



表現演習 | 特別講義





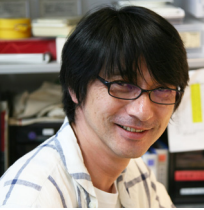
●**戸谷成雄 主任教授**
1947 年生まれ。
1975 年愛知県立芸術大学大学院彫刻専攻修了。
1988 年ヴェニス・ビエンナーレへの出品以降さまざまな国際展に作品を発表している。また国内でも広島市現代美術館や愛知県美術館、ヴァンジ庭園美術館などで展覧会を多数行っている。
主な作品として「露呈する〈彫刻〉」からはじまる連作や、「森」のシリーズがある。近年では相反する緊張関係を取り入れた「ミニマルブロック」のシリーズへと展開している。



●**岡崎乾二郎 客員教授**
1955 年東京生まれ。
1982 年パリ・ビエンナーレ招聘以来、数多くの国際展に出品し、2002 年にはセゾン現代美術館にて大規模な個展を開催。また、同年「ヴェネツィア・ビエンナーレ第8回建築展」（日本館ディレクター）や、現代舞踊家トリシャ・ブラウンとのコラボレーションなど、つねに先鋭的な芸術活動を展開している。2001 年～2013 年まで近畿大学国際人文科学研究所四谷アート・ステディウム主任ディレクターをつとめた。東京都現代美術館（2009 ～2010 年）における特集展示では、1980 年代の立体作品から最新の絵画まで俯瞰した。2013 年、武蔵野美術大学美術館「ET IN ARCADIA EGO 墓は語るか―彫刻と呼ばれる、隠された場所」（コンセプト展示企画、作品展示）に参加。2014 年、BankART1929「かたちの発語展」。主な著書に『ルネサンス 経験の条件』（文藝春秋）、『れろれろくん』（小学館）。



●**牛島達治 講師**
1958 年東京生まれ
1994 年より Asian Cultural Council の奨学金によりニューヨーク在住。
80 年なかば頃よりメカニカルな動く作品を制作し始める。初期の頃はそれらを「無用な機械たち」と呼び、そこから表現活動が始まった。
活動を進めてゆくなかで興味の対象が手のひらの中の出来事から、身体的な大きさに広がり、やがて建築的なスケールでの出来事へと領域を拡張しながら現在に至っている。美術館やギャラリーといった場所以外にも街の中のミッションワークや越後妻有の里山などの地域をめぐる展覧会にも関わる事も多い。
最近では、移動型の工房の制作とそれを用いた旅の展開を画策している。



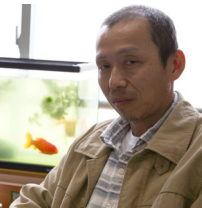
●**細井篤 講師**
1963 年生まれ。
1988 年 武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了
有限に等しい無限の一空間、不確かな存在と極小曲面をテーマに、近年はパブリックスペースとの関わりの中から制作を続ける。
主な仕事：「視ることのアレゴリー」セゾン美術館、「Atsushi Hosoi & Song Dong 展」ガスワークス／ロンドン、「亜細亜散歩 Beijing-Seoul-Taipei-Tokyo」資生堂ギャラリー
主なコレクション：愛知県美術館、デルメンデレ現代美術館、新潟スタジアム、深川ギャザリア、ミッドランドスクエア、みなとみらいグランドセントラルタワー、他多数



●**伊藤誠 教授**
1955 年生まれ。
1983 年武蔵野美術大学大学院修了。
空間表現全般。主に「かたち」の在り方について制作を 1980 年代より現在まで個展を中心に発表を行う。90 年代より美術館やギャラリーに限らず様々な場所で発表をし、制作展開は紙媒体の作品から建築的規模の作品に至る。
作品は東京都港区「TAP」、東京国立近代美術館、愛知県美術館、千葉市美術館、東京国際フォーラム、サッポロドーム、大阪 Ritz Carlton 地下、川崎医療福祉大学、等で見ることが出来る。



●**牛臨達夫 講師**
1958 生まれ。
1986 年 武蔵野美術大学大学院修了。
主な展覧会：ルナミ画廊／東京、ときわ画廊／東京、ギャラリー 21 + 葉／東京、永井祥子ギャラリー SOKO／東京、かわさき IBM 市民文化ギャラリー／神奈川県、人形町エキジビットスペース・ヴィジョンズ／東京、gallery21yo-j／東京、日本芸術会館／東京、北海道立釧路芸術館／北海道、新潟県立万代島美術館／新潟、他。
グループ「ABST」として、コンクリート・ワークス展、抽象再考、面の地平、Abstract Minimalism、他。

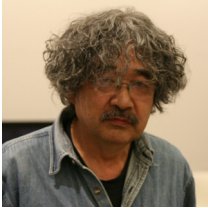


●**丸山富之 講師**
1956 年生まれ
1986 年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。
個展を中心として、長崎県諫早産の砂岩を用いた石の仕事を継続している。
ヒノギャラリー／東京（1996,1999,2001,2004,2006,2007,2008,2011,2012,2014）
Gallery Shilla／大邱、韓国（2006）他

http://chokoku.musabi.ac.jp/



●**高柳恵里 客員教授**
1962 年生まれ。美術家。
1986 年多摩美術大学大学院美術研究科修了。1990-91 年イタリア政府給費留学（ミラノ国立美術学院）。
主な仕事：「彫刻の遠心カーこの十年の展開」国立国際美術館／大阪、「ひそやかなラディカリズム」東京都現代美術館／東京「美術館を読み解く」東京国立博物館／東京「近作展 28 高柳恵里」国立国際美術館／大阪、「心の在り処」ブダペスト／モスクワ、「20 世紀美術探検―アーティストたちの三つの冒険物語―」国立新美術館／東京 他。
主なコレクション：滋賀県立近代美術館、霧島アートの森、国立国際美術館、東京都現代美術館
第一生命保険相互会社、他。



●**遠藤利克 客員教授**
1950 年岐阜県生まれ。
1970 年代より焼成した木、水、土などを用い、物質の根源的な意味を問う彫刻作品を発表し続けている。
主な仕事
・「空洞説」シリーズ：2009 年「遠藤利克展―供養と空洞」（国際芸術センター青森）、2012 年「空洞説―円環⇄壺」（秋山画廊）・「Trieb(欲動)」シリーズ：2006 年「Trieb―振動（Rain Room）」（発電所美術館）、2009 年「Trieb―一氾濫」（水と土の芸術祭 2009）



●**西尾康之 講師**
1967 生まれ
1990 年武蔵野美術大学卒業。
主な仕事：「小谷元彦／西尾康之の『Cast Cycle』」SCAI THE BATHHOUSE／東京、「六本木クロッシング」森美術館／東京、「ハイエナジーフィールド」麒麟プラザ大阪／大阪、GUNDAM 一來るべき未来のために― サントリー 美術館天保山／大阪、「Busan ビエンナーレ 2008」釜山市立美術館／釜山、「ネオテニー・ジャパン ー高橋コレクション」上野の森美術館／東京、「EXOTICISM」山本現代／東京



●**窪田美樹 講師**
1975 年生まれ
主な個展：hpgrp gallery Tokyo/ 東京（2012,2011,2009）、2008 年第3回 siseido art egg 資生堂ギャラリー／東京 他多数
主なグループ展：2011「おまえはどうなんだ？」松の湯二階／東京、2010 あいちトリエンナーレ 2010「皮膚と地図―4 名のアーティストによる身体と知覚への試み」／愛知、2009 第 1 回所沢ビエンナーレ「引込線」／埼玉、2008「Haptic- 触覚」／Vik Muniz キュレーションによる伯・日アーティスト交流展」TWS本郷／東京、2006 第 3 回府中ビエンナーレ「美と価値」府中市美術館／東京 他多数



●**三沢厚彦 教授**
1961 年京都府生まれ。
1989 年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。
樟を素材に油絵の具で着彩するという手法で等身大の動物をつくっている。
主な個展に 2007 年「ANIMALS+」平塚市美術館／神奈川県、2013 年「ANIMALS in 三重」三重県立美術館／三重 2014 年「ANIMALS in ASAGO」あさご芸術の森美術館／兵庫 がある。
主な著作：2002 年「ANIMALS」2007 年「ANIMALS+」（共に求龍堂）。主なコレクション：愛知県美術館、道立旭川美術館、井原市立田中美術館、高松市美術館、メナード美術館など。



●**黒川弘毅 教授**
1952 年東京都生まれ。
1977 年東京造形大学美術学部彫刻専攻卒業。
1980 年より個展を中心にブロンズの彫刻を発表している。型取りや素材の変換ではない、ブロンズを直接的な媒体とする彫刻を作り続けてきた。
また、ブロンズを中心に近代日本彫刻の研究と保存修復にも取り組んできた。武蔵野美術大学に着任してからは、大学の前身である帝国美術学校の設立に参画して本学科の基礎を築いた清水多嘉示、武蔵野美術学校彫刻科を卒業して韓国の近代彫刻の土台を形成した権鎮圭を研究し、展覧会の企画を行ってきた。



●**北川宏人 講師**
1967 滋賀県大津市生まれ／金沢美術工芸大学彫刻専攻卒業／イタリア、アカデミア美術学院彫刻科卒業／14 年間のイタリア在任期間にテラコッタによる人物像制作の技術を習得。作品は金沢 21 世紀美術館、国立近代美術館工芸館等に収蔵され、国内外で作品を発表し続けている。
主な個展、企画展には金沢 21 世紀美術館、東京国立近代美術館工芸館、東京画廊、ヨシアキイノウエギャラリー、誠品画廊（台北）、GANA ART(ソウル) がある。
http://www.hirokitagawa.net/



●**米原昌郎 講師**
1968 年生まれ
1995 京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。彫刻の他に映像作品も制作／作家としても活動。 主な展覧会「第 15 回平行芸術展―イメージ・ストーリー」エスパス OHARA／東京、「Each Artist, Each Moment 2001」ギャラリー GAN／東京「FLAGSHIP」東京国際フォーラムエキジビジョン・スペース／東京、「The Vision of Contemporary Art 2005」上野の森美術館／東京、「静岡 New Art」静岡県立美術館・旧浜松銀行 協会／静岡、「Long good bye」ギャラリーほそかわ／大阪、「探索者」多摩美術大学美術館／東京、「アート プログラム青梅 2011」青梅市美術館／東京、「今、物語る。」相模原市民ギャラリー／東京



●**上村卓大 講師**
1980 年高知県生まれ。
2008 年武蔵野美術大学大学院博士〔後期〕課程単位取得退学。
主な展覧会として『変成態―リアルな現代の物質性―』（2009 年）や『sunlit Boulevardiers』（2011 年）に参加。2013 年には、武蔵野美術大学美術館で開催された展覧会『ET IN ARCADIA EGO 墓は語るか』において、造形作家である岡崎乾二郎氏の監修のもと、イサムノグチ《広島平和記念公園慰霊碑》や白井晟一《ノア・ビル》および《原爆堂》の建築模型の再制作を担当。

●**研究室について**
彫刻学科研究室は作家である教員が、研究目標により様々なチームをつくる場合、あるいは個人として専門領域を深く指導する場合、あるいはひとつの問題に対して議論し合う場合など様々な動きのとれる柔軟な組織です。

助手：八木貴史 山本麻璃絵
教務補助：亀島悠平 姫野亜也